

「住み慣れた地域で暮らし続けたい」 ～高齢者の願いの実現に向けて～

地域で取り組む

移動手段



初瀬区・松原区で協働作業

梼原町の概要

◆位置：四万十川の源流域、愛媛県との県境の町。

高知市から 1 時間30分

松山市から 1 時間30分

◆面積：236.45km²（うち 91%が森林）

◆標高：220～1,455m

◆人口：3,285人（世帯数1,735） 令和4年3月末現在

◆高齢化率：約47.03%

◆観光：龍馬脱藩の道や隈研吾氏設計の雲の上の図書館など



維新の門



四国カルスト



雲の上の図書館

初瀬区・松原区の概要

栲原町は、明治22年（1889年）市町村制実施の大合併により、栲原、越知面、四万川、初瀬、中平、松原の6ヶ村が合併して「西津野村」となり、明治45年（1912年）栲原村と改称した際、現在の区、部落制が出来ました。

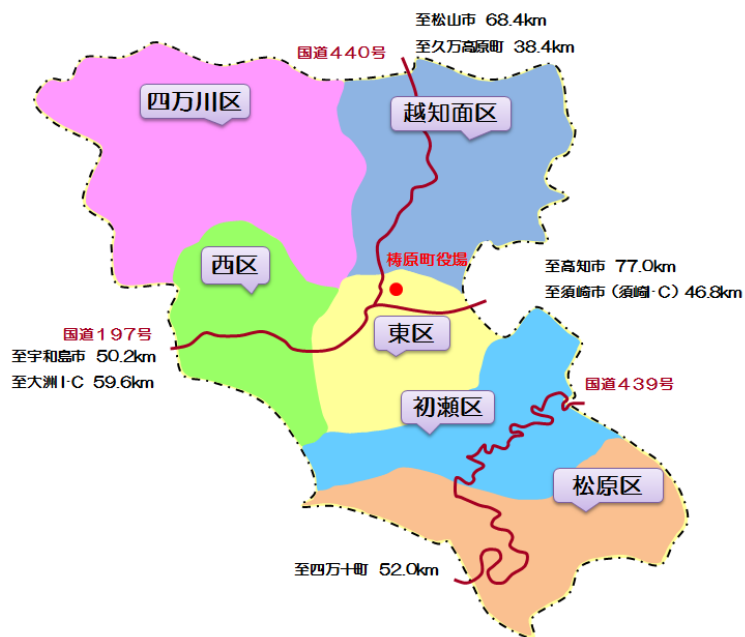
初瀬区・松原区は、栲原町の南部に位置します。

◆構成集落 初瀬区：7集落 松原区：6集落

◆人口 初瀬区：66世帯112人（高齢化率69.72%）

松原区：135世帯221人（高齢化率71.56%）

令和4年3月末現在



チムジルバン鷹取



久保谷
セラピーロード



八百とどろ

当時の状況（平成23年2月28日現在）

人口

【町全体】

人口	3,875人
65歳以上の人口	1,570人
高齢化率	40.5%
高齢者のみの世帯	約3割

【初瀬・松原地区】

人口	463人
65歳以上人口	250人
高齢化率	55.0%
高齢者のみの世帯	約5割



初瀬・松原地区の交通事情

- ①初瀬・松原地区は町の中心地より
約18～24km
- ②タクシーだと片道 約6,000円
- ③バス便数
(松原・初瀬西地域)
定期バス：朝夕の2往復
スクールバス：1往復
(初瀬東地域)
スクールバス（長期休暇期間は運休）
津野町営バス：2往復

これまでの経過

平成19年度に町内の75歳以上で高齢者のみの世帯約290世帯に対し、
「**移動手段**と**買い物**などの生活必需品確保」に関する実態調査。

(町が実施)

運転状況と病院受診の移動手段の調査結果

- **不安を抱えながら運転**している。
(運転を止めたいが、日々の生活に困るので止めれない)
- 運転をやめた年齢 平均73.6歳。
- **単身世帯の8割が運転していない。**
- **定期通院率は高く、医療ニーズは高い。**
- **41%が通院で困っており、そのうちバスの利用の困りごと（バス停が遠い・便数が少ない）が最も多く、続いて徒歩（しんどい・遠い・体調により歩けない）。**
- **希望する手段は、バスやハイヤーのような気兼ねがない手段。しかし料金の問題、時間帯や便数の問題、バス停から遠いなどの問題がある。**

移動手段を考える意見交換会

【平成20年】

これらの実態をもとに関係事業者と今後の栲原の移動手段の確保に向けた検討会を町が主催。

なかなか運送事業者の合意が得られない

（厳しい経営状態が背景にある）→ 中断

（地域）**ガソリン代だけもらって、とにかくやろう！
今、始めないと遅い！という声**

同じように交通手段が少ない松原地区と合同で話し合いを持ち、協働で課題解決に向けて検討！

（町）**高齢者等の移動手段の確保は、長年の懸案事項**

高齢者の通院や社会参加を推進する上で、移送体制の確立は必要不可欠！ どう支援していくか！

共に支え合う仕組みをつくる。

【平成22年12月27日】

検討会を再開 参加人数18人（行政・各区長・運送事業者・関係機関）

（町からの提案）**運送事業者の安定した収入確保に向けて**

- ①小中一貫校の開校(H23.4)に伴うスクールバスの経路及び便数の拡大による
業務委託料の増加（生徒が少人数の地域は、タクシーを活用）
- ②各種事業の移送をシルバーからタクシー事業者へ委託先の変更
- ③町全体の移動手段の拡大として「タクシーチケット」の事業化へ
- ④NPO法人設立によって、津野町営バス路線 廃止

過疎地有償運送事業について、運送事業者の合意が得られた！

【平成23年3月14日】

行政、各区長、運送事業者、移動販売事業者、四国運輸局、商工会から構成される

「ゆすはら ふっとわーく推進協議会」 を設置し

将来にわたり、安全で安心して生活できる町づくりを推進することとなった。

協議会において、正式合意！

特定非営利活動法人 絆 設立

～住民による過疎地有償運送開始～

- 平成23年4月11日 法人設立（法務局登記）
- 平成23年4月28日 運輸局登録（県内で2番目）
- 平成23年5月 2日 町からエスティマ2台を無償貸与
- 平成23年5月 9日 事業開始



NPO法人 絆

【目的】

この法人は、地域住民に対して、過疎地有償運送、高齢者生活支援、地域おこしに関する事業を行い、住民が活力があり、安心、安全、快適な生活ができることに寄与する。

地域限定

○初瀬区

○松原区

有償運送事業の流れ



【車両】

エスティマ 2台
私有車 3台(松原区女性)

【運転者登録】

15人（講習を受けた登録者）

【定額料金】

区内 300円／片道
初瀬～町中心 1,000円／片道
松原～町中心 1,500円／片道

H27.12時点

利用者
約100
人／月

①申し込み

NPO法人絆

連絡員

②迎えや帰り
料金支払い



登録された利用者

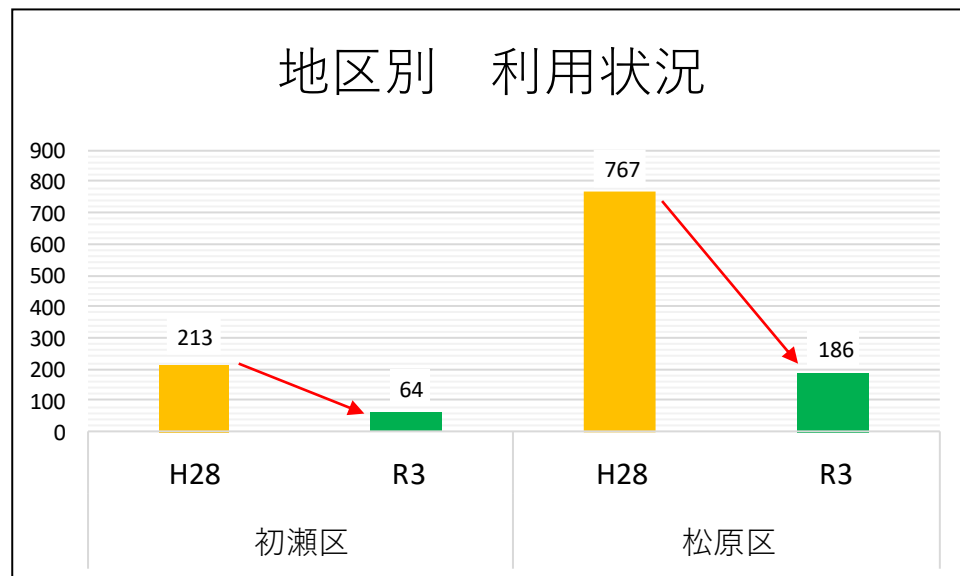


登録運転手



女性運転手
も大活躍！

自家用有償運送 利用状況

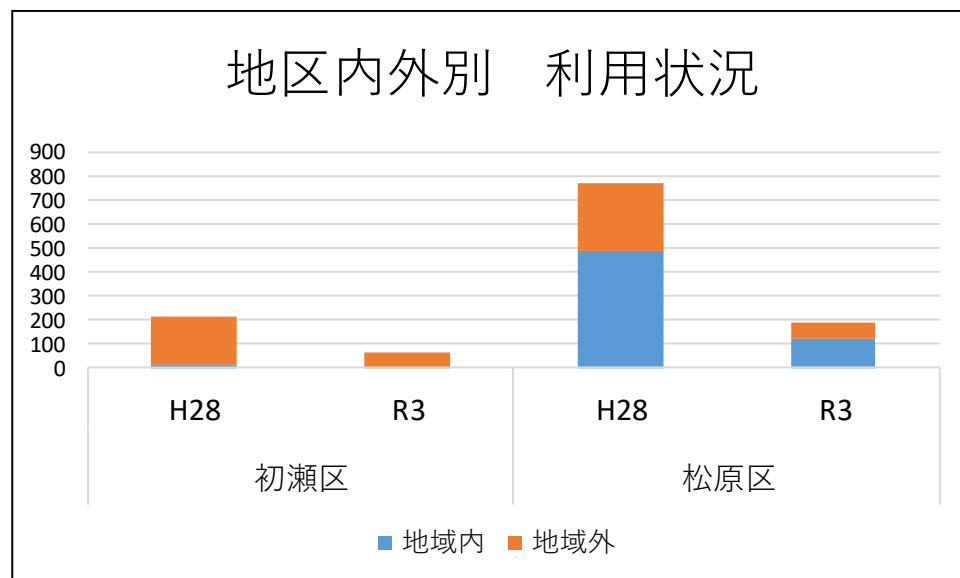


H28年度 → R3年度
初瀬区 213人 → 64人
松原区 767人 → 186人

この5年間で延べ利用者が
初瀬区：70%、松原区：76%減少

運転を担うドライバーも、
15人→9人に減少

※ドライバーは70歳で定年



松原区内には、診療所があるので、
H28年度は64%、R3年度は68%の
人が松原区内で利用をしている。

初瀬区は、ほとんどの人が区域外
（栲原町中心部）まで利用している。

NPO絆 白家用有償運送の課題

- ドライバーの減少により、電話予約を受けた後の配車までの段取りが難しい
 - 梶原の中心部まで運行した場合、利用者が病院や買い物などの用事が終わるまで近くで待機している。ドライバーは半日～1日がかりの仕事になってしまう
 - ドライバーは時間の拘束があるにも関わらず、報酬が少なく、ボランティアの状況にある
 - 利用者はほとんど1人で利用し、乗合利用になることはない
-
- 今後、免許返納者が増え、移動手段に困る人は多くなってくると思うが運営する側も高齢化により、予約の手配や運転手の確保などに課題がある
 - 将来的には、社会福祉協議会や梶原町役場が主体的に運行を担ってほしい

NPO絆は、自家用有償運送のほかに

「配食サービス」へ活動を広げる

平成24年6月

事業開始

平成28年度 実績

配食日：51日

配食数：1,238個

平均 24個/日

令和3年度 実績

配食日：52日

配食数：1,449個

平均 28個/日



きずな弁当

- 毎週木曜日（昼食）
- 一食400円（定額）
- 事前予約制
- 自宅まで宅配



地域住民と共に力を合わせて、地域の課題解決を図り、さらには地域の良さを高めながら、「出来る事から進める」を合い言葉に、活き活きと楽しく暮らしていける地域づくりに取り組んでいく。



ご静聴ありがとうございました。